

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|-----------|-------------|
| 事業所番号 | 2470600368 | | |
| 法人名 | 伊勢温泉観光株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームひまわり | | |
| 所在地 | 津市戸木町4113-11 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年 8月 4日 | 評価結果市町提出日 | 平成29年10月18日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470600368-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 29 年 9 月 5 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和顔愛語を理念として利用者様、家族様の気持ちに寄り添った介護を目指しています。いつも笑顔の絶えないホームでありたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目を迎える事業所で、管理者と職員は利用者の人権尊重や、家庭的で自立に向けての見守り支援を目指している。利用者家族や地域住民との関わりや交流を大切にする事業所で、毎年開催の恒例となる「夏祭り」は地域での大規模なイベントで、地域の一員としての交流と生活の場作りを目指した支援に取り組んでいる。広い敷地内には自然に触れる事が出来る公園があり、東屋・花畑・野菜畑等、利用者が日々の散歩で親しめる自然な環境作りがされており、暮らしの主人公である利用者の一日の過ごし方を柔軟に支えている。事業所理念である「和顔愛語」を掲げ、日々具体的な支援の実践に取り組んで行くよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本的な理念は今も変わっていません。職員間で共有し実践を目指している。 | 利用者が日常的に笑顔で過ごして頂けるように「和顔愛語」を理念に掲げ、サービスの提供に努めている。利用者の意思を確かめる事を大切に、管理者は日々の申し送りで全職員と共有し、実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 夏祭りなどの行事を通じて地域の一員として交流している。 | 併設デイサービスでの慰問イベントや行事への参加を利用者は楽しみにしている。毎年恒例の夏祭りは事業所敷地内で、自治会の参加・協力が得られ400人規模の盛大な地域に根ざした祭りで、地域住民との良い交流の場になっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方にホームの理解をして頂けるように取り組んでいきたい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 施設のホールを利用したり、自治会の会所を利用しています 内容はホームの状況を説明したり、意見交換を深めています。 | 会議会場は自治会からの提案と協力が得られ、事業所ホールと自治会集会所を交互に利用している。委員からは、事業所活動報告での理解や助言もあり、職員のやり甲斐に繋がっている。 | 参加メンバー構成を広げ家族への出席依頼や情報の共有と互いの理解の為にも、家族への議事録伝達の在り方を工夫されたい。また、双方向的な会議となる様、委員からの希望テーマを取り入れる等、会議内容を工夫され実りある会議となる様期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ホームの運営で分からない事があれば、その都度連絡を入れています。 | 市外からの入居相談や申請中での相談等について、管理者は市の窓口へ出向き、担当者より助言を受け積極的に取り組んでいる。生保利用者の入居にも相談や助言を受けサービス向上に活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 人権にかかわることなので、行動制限への対応方法を職員間で検討している。 | 「虐待防止学習テキスト」により事業所内で全職員への研修に取組み、日々の実践に活かせるようにしている。玄関より外部者や野犬の侵入が数回あり、利用者の安全・防犯上に於いて、施錠無しでも見守り確認強化に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 言葉の使い方など職員間で虐待と思われることが無いよう防止に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員会議などで制度について勉強を進めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書の内容を十分説明させて頂き、契約をするようにしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 昨年12月にホーム独自の家族様アンケート調査を行いました。その結果をもとに評価し、改善に取り組んでいます。今後行う予定です。 | 意見や要望が出し辛い家族の心情を配慮し、昨年12月家族アンケート実施、結果により評価・改善取組みに努めている。家族の面会時には、職員との会話の中より、様々な意見・要望を汲み取る様に心掛けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見を毎週の代表者との意見交換の場でとりあげ運営に反映されるようにしている。 | 管理者は、職員採用や利用者の入居相談等、その都度・その場で、出勤職員と情報や内容の意見交換し、何でも直接聴く・伝える機会を作っている。毎月第二火曜日の職員会議と年二回の個別面談での意見・要望を聴き取り、会社代表に伝えて働く意欲向上や運営に反映されるように努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 就業規則、諸規定、職場環境の整備、点検を行い、よい環境で働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 資格、研修委員会を立ち上げ資質の向上、レベルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 交流を広げて資質向上に努めていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人とコミュニケーションを取りながら個別対応している。ホームに馴染んでもらえるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族様とコミュニケーションを取るよう努め、希望を聞き、不安を取り除くようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初期対応として家族に見学に来ていただき、思いを理解した上で適切なサービスが提供出来るよう心掛けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員と入居者、また入居者同士同じに暮らす関係であることを認識し、一方的に事を進めず意思を確認しながら進めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族様との関係は円滑に進むように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族友人知人が気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに努めている。本人が一番気持ちが落ち着くと思うので出来る限り支援したい。 | 入居前馴染みの散髪屋も今では、訪問の散髪屋が馴染みとなり、利用者は気持ち良く落ち着いた雰囲気で利用している。大好きな囲碁や将棋には、職員の家族が日曜日に相手をして、楽しみの時間を提供し喜ばれている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個別対応をさせていただきながら、職員が間に入り利用者同士の関係が上手くいくように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後もご家族が相談にこられた時は、相談に応じています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個別対応に心掛けています。少人数のグループホームだからこそ出来る事があると思います。 | 毎日接する時、利用者を知り、日々の生活で思いの掴み取り・ニーズの発見等、少人数での個別対応だからこそ丁寧に把握出来る事に努めている。把握出来た情報は記録をし介護計画にも活かしている。食事とテレビ番組のタイミングも重なる時間には消音にして、画面だけで楽しんでもらう様に利用者の思いを尊重している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの個々の生き方、暮らしてきた内容をよく聞き尊重し把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個別対応に心掛けています。個々の状態把握が必要である。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月職員間で話し合いを持ちながら計画を見直し作成している。決められたことは実行している。モニタリングを実施し現状に合わせた介護計画としている。 | フロア会議での家族や医師の意見が反映され、それを取り入れモニタリングやケアプラン見直しを丁寧にされている。家族に介護計画を説明し手渡した後、希望欄に記入される方も有り、計画の見直しに反映されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者ごとに個別書式としている。情報の共有、漏れがないように毎日バイタル、排便、排尿、水分、入浴、食事量などの記録をしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族と相談しながら進めていきたいと思っています。生活援助に柔軟に取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の資源を活用し、取り組んでいきたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望を取り入れて支援させてもらっている。かかりつけ医と連携を密にし対応できるよう取り組んでいる。 | 利用者の約半数は協力医で、往診は月2回である。入居前からのかかりつけ医へ受診は家族が協力的である。夜間、緊急時は協力医とかかりつけ医其々に電話連絡し、医師の指示に従い医療の支援に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 隣接施設の看護師と連携を取りながら対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時職員が付き添い、家族と協力をして入院に向けて取り組んでいる。その後の経過も担当医師、ケースワーカーと連絡を取り合い退院の許可が出た時点で戻ってきてもらっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 協力医を交え、家族と相談しながら対応している。 | 現在迄、看取り経験は無いが、看取り指針に沿って、利用者・家族希望者へは話し合いや説明は行なっている。重度化や終末期に於いて、急変時には病院搬送を希望される家族も有り、時期やタイミングにより、丁寧な対応を考えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員間で日常業務時話し合いを持ち急変時の対応が出来るように取り組んでいる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の行動について職員間で話し合いをしている。地域の方にも協力をお願いしている。 | 消防署立会いと事業所独自で年2回の訓練を実施している。AEDの使用法、簡易担架の作り方、車椅子での階段搬送訓練等を取り入れ実践的な取り組みをしている。3日分の米と水、カセットコンロ、土鍋等を備蓄している。今後は地域での防災協力の実現が課題である。 | 大規模地震災害を前提に、夜間火災になる事も仮定して、事業所がどんな対応が出来るのか、地域と協力し合える事の話し合い、又地域での建物損壊時、事業所が一次的避難場所として有効なら地域とも体制を話し合う、そして備蓄品の更なる見直しを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個別対応に心掛け大声で話しかけない事でプライバシーが守られるよう対応している。 | 一人ひとりを尊重し、皆の前では小声で・大声で話さない様に・人前で言われたくない事は控える様に等、管理者は全職員に注意喚起を職員会議の折に触れ、理念にも触れて呼び掛けに努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々利用者さんと接する中で思いを受け止め、自己決定できるように配慮している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間、入浴日は決めてはいますが、他の時間については見守り声かけはさせていただきますが一人ひとり自由に過ごしていただいています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理美容を利用している。家族に衣替えを依頼し季節に合った格好をしてもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立、材料を業者に任せています。月に1回はオリジナルメニューを考えています。普通食を出していますが嚥下状態によってはトロミ、きざみ食にして食べやすい工夫をしています。 | 献立・食材は業者から届き、職員が調理している。誕生日やイベントなど月1回オリジナルメニューを皆で考え、行事食を楽しんでいる。テーブル拭きや下膳をお手伝いされる利用者も多く、オヤツに利用者が職員と一緒におはぎ作りを楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分補給、栄養状態については、本人の体調を考慮し食事時に限らずいつでも水分等が補給できるように努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後洗面所へ誘導し口腔ケアに取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | リハビリパンツを使用している方も見えますが、なるべくトイレでの排泄に向けて声かけ、トイレ誘導を行っている 特に食事前後の声かけをしています。 | 事業所が今一番努力している事は「出来るだけトイレを利用してもらう」この事を職員に呼び掛け実践に努めている。各居室にトイレが設置され、夜勤者は居室内の物音に気付き、確認をしている。代表者は各居室トイレ全てを掃除専門業者に依頼し、職員は利用者支援に徹する事を方針とし、全職員が個別の排泄自立支援に力を入れている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給や体を動かすようにしてもらっている。医師の指示のもと下剤を服用してもらっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個浴です。一人ひとりお湯を交換しています。入浴嫌いな方もいますが気持ちの変化をつかみ取り組んでいます。 | 週3回午後からが入浴時間で、一人ずつお湯を入れ替えている。各ユニットの2、3、4階の浴室から見える森や遠くの街の眺めが美しく、気分良く楽しい入浴をしている。入浴嫌いな方も、無理強いせず時間やタイミングを見計らって声掛け誘導している。特浴を含め広い浴室設備の増築が検討されている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠りにつきやすいように居室の温度調節をしたり寝具を清潔にするため毎週1回シーツ交換をしています。夜間巡視時のドアの音や足音に気を付けています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ほとんどの方が服薬されています。出された薬を間違はないようにその都度服薬確認をしています。薬の効果、副作用についても確認しています。また減薬も医師に依頼しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ゴミ出しなど仕事や、遊びを取り入れながら気分転換をしてもらっている。時には外出し喫茶店でコーヒーを楽しんでもらっています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 職員が同行しての散歩、お花見、ドライブなどの外出に取り組んでいる。家族との外出、外食などに対応している。 | 玄関から直ぐの道沿いを数分歩いて、公園までの散歩コースが日課となっている。季節の野菜や花壇があり、綺麗な景色を見ながら東屋で休憩も出来る場所である。午後3時は毎日隣のデイサービス迄ゴミ捨てに出掛けたり、近くのスーパー迄買物やクリーニング出し等の外出支援もしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持については家族と相談の上、小銭を持ってもらうようにしています。外出した時など近くの自販機で飲み物を購入されています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を持っている方1名います。電話は家族や知人からかかっています。自分から進んで電話したい方は見えませんが頼まれることはあるのでホームの電話を利用してもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | お風呂の脱衣室に暖房設備があり、冬場の入浴に気持ちよく過ごせるようにしてあります。フロアー全体もエアコンが届きます。プライバシーに配慮したテーブル配置にしています。 | 事業所の名前の「ひまわり」に因んで、各ユニットのリビングには、ひまわりの大きな折紙の作品が壁に貼られている。黄色い明るさが気分良い共有空間で、利用者の憩いの場になっている。浴室は入浴中、遠くまでの景色がとても心地良い眺めである。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間にも、プライベートな空間があります。自由に行き来できます。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッド、寝具はホームのを使用してもらっている。居室は個人の好みで馴染みの物を置いたりして好きなように使用してもらっている。 | 全室に床暖房設備があり、特に冬場の夜は居室環境が安心である。居室窓から遠く眺める景色が気分も落ち着く雰囲気が感じられる。居室内トイレは、カーテンで区切られ動き易く、又衛生的で綺麗に掃除も行き届き、臭い等も感じられない。居室内の壁は背の高さほどまで、木の板が張られ、落ち着きと清潔感がある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホームは階段がありますが、事故防止のため家族、利用者はエレベーターを使用してもらっている。ホーム内は段差もなく車イス移動もスムーズに出来ます。 | | |